

おなかの
調子が悪い

ダイエット
美容が気になる

免疫機能を
高めたい

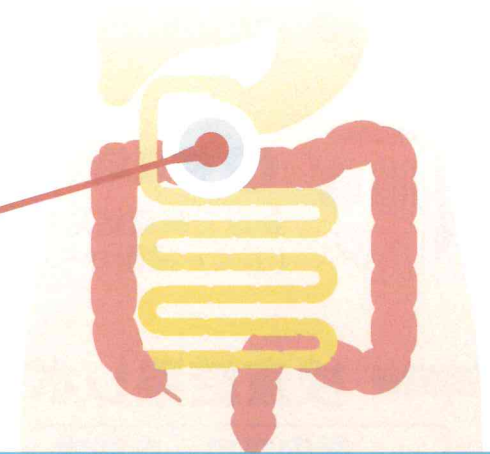


そのおなかのお悩み

腸内フローラ

のせいかも？

あなたにぴったりの
生活習慣のアドバイス
レポートをお送りします！



ご自宅でできる便検査で、
腸内フローラをお調べします

腸内フローラとは、腸内に生息する常在細菌の集合体で、私たちの腸内には約100兆個以上の細菌がすみついています。腸内フローラのバランスが、全身の健康状態や疾患と密接な関係があることが、様々な研究で分かってきています。

定期的に腸内フローラの状態を調べ、自分に最適な生活習慣の改善に取り組むことが重要です。

—こんな方におすすめの検査です—

お腹の症状でお悩みの方や
大腸がんが心配な方



お肌のお悩みや
更年期障害でお悩みの方



忙しくて生活が乱れがちの方



免疫機能を高めたい方



小張総合病院 健診センター TEL: 04-7124-7427

検査費用

18,700円(税込)

自宅で行う検査です。

1 検査キットの受け取り

施設から検査キットをお受け取りください

2 自宅で採便

ご自宅で検査キットを使用して便を採取します

3 ポストに投函

採便したキットを同封の返信用封筒に入れてポストに投函します

4 検査結果の受け取り

郵送で検査結果が返却されます(ポスト投函から4~6週間)

よくあるご質問

Q 検査を受けられない人はいますか？

A 抗生物質服用中や生理中は採便をお控えください。抗生物質を服用した場合は、服用終了後、1ヶ月程度期間を空けて採便してください。

Q 検査ができない便の状態はありますか？

A コロコロした固い便や、水のような水様便でも検査は可能です。できるだけいつもと同じ状態の便を採取していただくことをおすすめします。

Q どのくらいの頻度で再検査すれば良いですか？

A 半年~1年に1回程度、再検査をすることが望ましいです。

Q 前日の食事の影響はありますか？

A 前日の食事などはほとんど影響を及ぼしませんので、日頃の食生活のまま検査をしていただくことをおすすめしております。

検査結果レポートイメージ (一部抜粋)

腸内フローラ判定

腸内フローラバランスを5段階で評価します。

PART 1 腸内フローラのバランス(概要)について

腸内フローラは、約1000種類以上の腸内細菌から構成されています。多量に、腸内フローラ全体のバランスに与える影響を評価します。

腸内フローラ(総合)判定

腸内フローラを構成する菌のバランスをもとに、A-Eの段階で腸内環境を評価しています。D、E判定の場合は、バランスが崩壊(ディスバイオーシス)が疑われるため、積極的な生活習慣の改善が必要です。理想的な腸内環境に近づけるよう、A判定を目指しましょう。

E バランスが悪い判定(ディスバイオーシスの疑い)
前週: D 前々週: -

コメント
有用菌が全般的に少なく、バランスが崩れた腸内フローラです。生活習慣を改善して、3ヶ月~半年後を目安に再検査をおすすめします。

腸内細菌の多様性判定

腸内細菌の多様性が高いほど、免疫的な腸内環境に近づきやすくなります。腸内細菌の種類が豊富で、各菌がバランス良く存在していると、多様性が高くなります。

多様性スコア: 5.81
前週: 悪い(4.55) 前々週: -

コメント
多様性は平均的です。今より更に多様性を高められるよう、ランバイオティクスを日頃の食事で意識しましょう。

健康長寿命菌判定

健康長寿の人の腸内に多い、「ビフィズス菌(酢酸産生菌)」と「フィッカリバクテリウム属(酪酸産生菌)」を十分保有していたかどうかを判定しています。※各菌の詳細結果はp.4「個別注目菌の割合」を参照してください。

2菌とも不足
前週: 2菌とも不足 前々週: -

コメント
ビフィズス菌(酢酸産生菌)が不足気味です。p.4の個別注目菌の結果を参照しましょう。

疾患別リスク判定

糖尿病、高血圧、大腸がんなどの腸内細菌からみた疾患リスクがわかります。

PART 2 腸内フローラの観点からみた疾患リスク

腸内フローラは、全身の様々な疾患と深い関わりがあります。今回の腸内フローラの結果からみた各疾患リスクを把握し、疾患の発症リスクを減らすための生活習慣の改善に努めましょう。
※あくまで腸内フローラと疾患の相関関係を示すもので、診断や治療の決定に直接関係するものではありません。疾患の有無には腸内フローラ以外の様々な要因も関わっているため、多岐にわたるそれぞれの要因を考慮した総合的な判断が必要です。

疾患別リスク判定

機能性下痢 (IBS)

低 中 高

コメント
腸内フローラのバランスから見た、機能性下痢(IBS)のリスクは低いと考えられます。引き続きp.5のような生活習慣を改善しましょう。

血圧系バイオマーカースコア

低 中 高

コメント
高血圧の人に似た腸内フローラの特徴があるため、今後注意が必要です。p.5のアドバイスを参考に、今後生活習慣を改善していきましょう。

カテゴリー	注目菌名	腸内細菌(%)	結果割合	前週	前々週	判定/傾向
腸内細菌	酢酸産生菌	フェーカリバクテリウム属 ブチリバクテリウム属	0.24%	0.27%~	0.27%~	0.27%~
	酪酸産生菌	ヒストリコバクテリウム属 ヒストリコバクテリウム属	1.17%	1.17%~	1.17%~	1.17%~
有用菌	プロバイオ菌	ビフィズス菌	0.00%	0.01%~	0.01%~	0.01%~
	エコー菌	フィッカリバクテリウム属 フィッカリバクテリウム属	0.87%	0.87%~	0.87%~	0.87%~
	やせ菌	クリスタルニセチ	0.00%	0.01%~	0.01%~	0.01%~

改善アドバイス

不足している有用菌の増やし方や、要注意菌の改善方法などがわかります。

個別注目菌(有用菌)

改善ポイントトップ3

p.4の個別注目菌(有用菌)の結果を改善するために、あなたにとって特に有効な、具体的な改善方法をアドバイスいたします。

1 果物の摂取

果物には、腸内細菌のエサとなる水溶性食物繊維やアルコールが含まれています。特に旬を出た果物は、栄養価が高い傾向にあります。1日1品の果物を積極的に摂取です。

- この生活習慣で改善できる菌
- アクティブ菌(ラクノスピラ)
 - やせ菌(クリステンセネラ)
 - アクティブ菌(ロゼリア)
 - アクティブ菌(メンダグロバ)

2 運動

適度な運動は、自律神経に良い影響を与え、排便に必要な腸内作りにも繋がります。マイケンデータでは、週に60分以上運動している人ほど腸内が安定傾向にあります。

- この生活習慣で改善できる菌
- アクティブ菌(ラクノスピラ)
 - アクティブ菌(ロゼリア)
 - 酢酸産生菌(ビフィズス菌)
 - アクティブ菌(フチリスコッカス)
 - アクティブ菌(メンダグロバ)

3 牛乳・チーズの摂取

牛乳やチーズには、腸内細菌のエサとなるオリゴ糖が含まれています。マイケンデータでは、牛乳・チーズの摂取頻度が高いほどビフィズス菌の保有率が高い、というデータもあります。

- この生活習慣で改善できる菌
- 酢酸産生菌(ビフィズス菌)
 - やせ菌(クリステンセネラ)
 - アクティブ菌(メンダグロバ)

健康長寿命菌判定

元気な高齢者の方に多い菌を3段階で判定します。

有用菌/要注意菌の割合

良い動きをしている有用菌や、悪い動きをしている要注意菌の割合がわかります。



こちらの二次元コードより腸内フローラ検査の詳細について確認できます。



管理栄養士監修による腸内細菌を良くする為の生活習慣改善アドバイスが検査結果レポート内にありますので、ご自身の生活習慣改善にお役立ていただけます。